

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 水 3	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	法と政治 (現代社会と洗脳) Law and Politics (Society and Brainwashing)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 安部俊二 / Eメールアドレス: abe-s@net.nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 教育学部新館6階652研究室 /オフィスアワー: 水曜16時から18時まで			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>講義のねらい: 洗脳を宗教・政治カルトなどに限定せず「密室的状況を利用しての(強制的)思考転換」として捉えると、多くの現代の社会現象は「洗脳的」性格を帯びたものとして理解できる。洗脳の視角から現代社会を分析することによって新たな社会像を模索したい(1)。また、「犯罪と人権」に関する基本的考え方を学ぶ。具体的には、犯罪被害者(支援)、冤罪被害、犯罪報道、死刑制度、「裁判員裁判」について理解を深め、国民の「裁判参加」に対応できる基礎的な知識を修得したい(2)。</p> <p>講義方法: ドキュメンタリー映像・講演を テキスト に「洗脳と現代社会」「犯罪と人権」の問題を考える。</p> <p>講義到達目標: 新たな視角からの現代社会分析の枠組みを修得できるだろう(1)。犯罪と人権に関する基本的な知識・考え方を修得できるだろう(2)。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>講義内容・展開は世界情勢・受講生の要望で変更・選択するが、以下の内容を予定。</p> <p>講義は、まず 洗脳 の理論的概要を把握し、続いて現代社会におけるいくつかの社会現象の「洗脳」的側面を検討し、最後に犯罪と人権についての基本的事項を理解する3部構成。</p> <p>0. 洗脳 Brainwashing の基礎理論(第1・3回)</p> <p>1. 現代社会と洗脳(第2・3・4・5・6・7・8回)</p> <p style="padding-left: 2em;">アメリカ海兵隊新兵教育(第2・3回)</p> <p style="padding-left: 2em;">ギリシア憲兵教育(第2回)</p> <p style="padding-left: 2em;">旧ソ連特殊精神病院(SPH)・大津事件・虎ノ門事件</p> <p style="padding-left: 2em;">中国「労働改造」</p> <p style="padding-left: 2em;">北朝鮮における「工作員」教育</p> <p style="padding-left: 2em;">チリ・ピノチェト独裁政権下の拷問と政治犯</p> <p style="padding-left: 2em;">自己改造セミナー・修養団・悪徳商法・新宗教教団</p> <p>2. 犯罪と人権(第9・10・11・12・13・14回)</p> <p style="padding-left: 2em;">犯罪被害 被害者支援と修復的司法</p> <p style="padding-left: 2em;">冤罪被害 大分女子短大生殺人事件の事例研究</p> <p style="padding-left: 2em;">犯罪報道と人権 報道現場からの報告 刑罰と矯正教育・死刑制度</p> <p style="padding-left: 2em;">裁判員裁判制度(第14回)</p> <p>3. 定期試験(90分)(第15回)</p>			
キーワード	洗脳・政治的社会化・犯罪・冤罪		
教科書・教材・参考書	<p>教科書: 米本和広『洗脳の楽園 ヤマギシ会という悲劇』(宝島社・1999年)</p> <p style="padding-left: 2em;">高沢皓司『宿命「よど号」亡命者たちの秘密工作』(新潮社・1998年)</p> <p style="padding-left: 2em;">高木光太郎『証言の心理学 記憶を信じる、記憶を疑う』(中公新書・2006年)</p> <p>参考書: 大熊輝夫『人間を変えるー洗脳のメカニズム』(筑摩書房・1966年)</p> <p style="padding-left: 2em;">J・ブラウン『説得と誘惑の技術』(誠信書房・1967年)</p>		
成績評価の方法・基準等	定期試験の結果(5割)と毎回鑑賞するドキュメンタリー作品・講演の分析レポート(A4判1枚程度)の結果(5割)を総合的に判断して評価する。なお、レポートは「作品の分析」であって、「感想」を求めるわけではありません。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	開講時に紹介する参考文献を受講前に読んでください。復習も大事です。		